

Asterism のこと 導入編

双眼鏡で星空を流していたり、星図ソフトでいろいろな空域を眺めていると、思わぬ面白い星のならびに気づくことがあります。このような星の並びを Asterism(アステリズム)というのですが、日本ではあまり馴染みのない言葉です。

Asterism を Wikipedia(英語版のほう)で引くと、広義には 88 星座以外の星の並びや集まりのことをいいます。これを勝手に分類すると、次のようになります。

- ① 星座を越えた大きな星の並び
 夏の大三角、冬のダイヤモンド、春の大曲線 など
- ② 星座以外の星の並び
 北斗七星、しし座の逆クエスチョンマーク、ペガサスの四辺形 など
- ③ 双眼鏡クラスの特徴的な星の並び
 コートハンガー、オリオンの S、星座の形をした微光星の並びなど
- ④ その他散開星団ではない星の集団、特徴的な散開星団 など
 NGC1662(クリンゴン船)、いるか座 θ 星付近 など

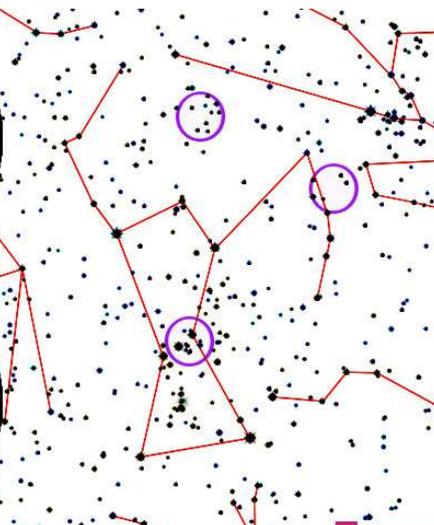
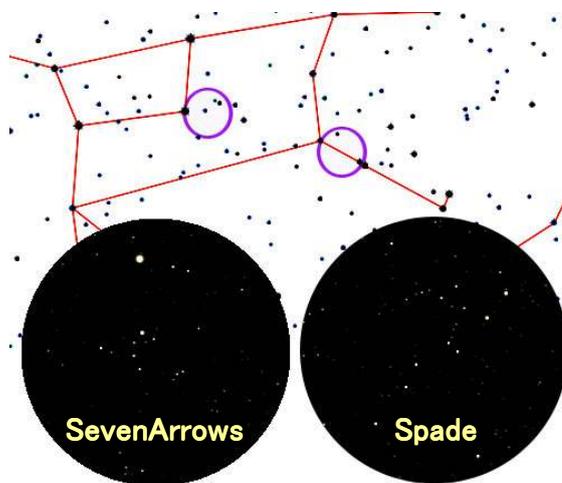
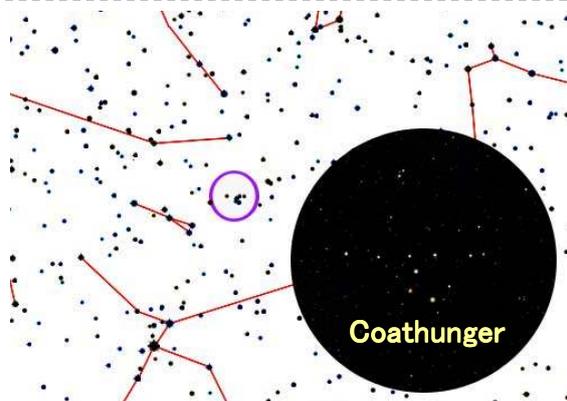
世界各地の伝承にある星座(魚釣星(さそり座)、ティーカップ(いて座))などは、②に含まれるのかもしれませんが、ここでは分類外かなと思います。

このような Asterism は、観望会などで、面白い観望対象の星のネタが切れたとき、特に③に分類される星々を覚えておくと思わぬ救世主になることもあるので、この際に徹底して調べてみることにしました。

ということで持ち出したのは例によって Sky&Telescope 誌です。過去数年分の星空の案内記事の中から Asterism に関する記述を漁るという地味な作業を行いました。

本号では、導入編としてその中でも比較的有名だったりメジャーだったりといった特徴ある Asterism を紹介しますが、次号ではそのリストをいっしょに掲載する予定です。

これらの Asterism は、実際のところ星のならびに無理があるものもあって、「見てがっかり」というものも少なくありません。とりあえずは、見てみてなんぼであります。



左上：こぎつね座 右上：おおぐま座
 下：オリオン座～おうし座

メカが大好き マイコンフラッシュライト

100円ショップではいろいろな種類のフラッシュライトが売られていて、改造心をゆさぶられます。

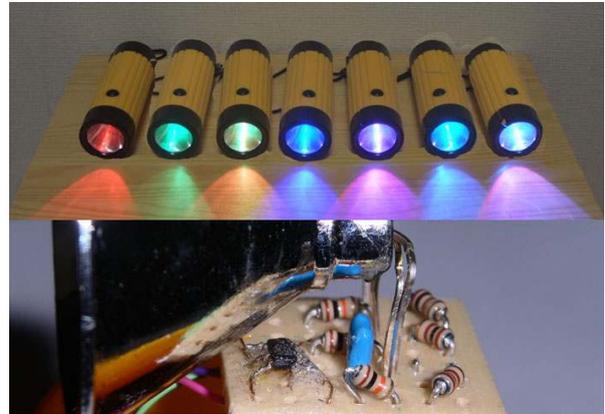
手始めとしては、LEDの球を変えてみていろいろな色のライトにしてみたり、パワーを上げてみたり、もとのライトより随分と部品代の高い改造ですが、1台を工作するだけでも楽しめます。

さて、天文台のC氏(フラッシュライト名人)から譲ってもらったフラッシュライトを約1年もほったらかしにしてあったのですが、内部には広い空間があっという間と仕込めそうなので本格的に工作しました。

今回は、マイコン(PIC)を内蔵して、スイッチのON/OFFで色が変わるように、また、時間がたてば点滅に切り替わるというプログラムを入れています。

小型に仕込むためにチップ部品のPICを使ったのですが、

空スペースのことを考えると、そこまで小さく作りこむ必要は無かったみたいです。(半田付けが大変(^_^))でも、逆に言うともっと小さなフラッシュライトにも入れられそうです。



Books & CDs TAUZERO(タウ・ゼロ)/ポール・アンダースン

先日、テレビで「アンストップパブル」のDVD発売のCMを見ました。この映画は、化学物質を満載した貨物列車の暴走を止めようとする男たちの物語なのですが、止まらなくなる乗り物ということで、TAUZEROのことを思い出しました。

TAUZEROは、1970年にポール・アンダースンが発表したハードSFです。SFというのは科学技術を軸に据え、その中で苦難に立ち向かう人間等の姿を綴る物語ですが、この「科学技術」というのが曲者で、あまりに荒唐無稽な「魔法」を織り込むと物語が嘘臭くなってしまったりするので、その按配をどうするかが作者の力量にかかります。

そのような中、TAUZEROは、前提にしている科学技術は間違いなく今ある技術の延長線上にあって、物理法則もなんら手を加えられていません。で、地球を出発してくじら座 τ 星へ向かう予定の恒星間宇宙船がトラブルで減速できなくなってしまうのですが、最初は淡々と進む物語はゆるやかに盛り上がりを見せ、やがてとんでもないこ

ろに乗組員を運んでいきます。そして、その船の行きつく先がどこになるのか、登場人物が語るより前に読み手自身に気づくように仕組まれているところも秀逸です。

40年も前に書かれた作品ですが、今も何ら色あせることの無いすばらしい作品です。



編集雑記

4月以来の発行遅れがなかなか取り戻せずにはいますが、一挙挽回、起死回生狙いで2号を並行制作しております。でも、2号まとめて発行するのはあんまりなので、まずは7月号を配信することにしました。

取り付いたネタはAsterismということで、前々から体系的にまとめてみたいと思っていたものではありません。

今年の夏も不順な天気が続いて星屋には厳しい季節でしたが、逆に言えば雑誌のバックナンバーをめくる時間ができて、また、OnThePaperのおかげで手についたという感じで、この稿ができあがりました。

本文にも書きましたが、Stellariumなどの星図ソフトで無意識にエリアを流していると、偶然に面白いAsterismを拾うことができます。そして実際の空では同じように見えるのか??なんて楽しみ方もあり、調べはじめるとまだまだ奥が深いかもしれません。

Kz_Wada / 和田一人